

子どもに身につけてほしい能力とキャリア教育への期待

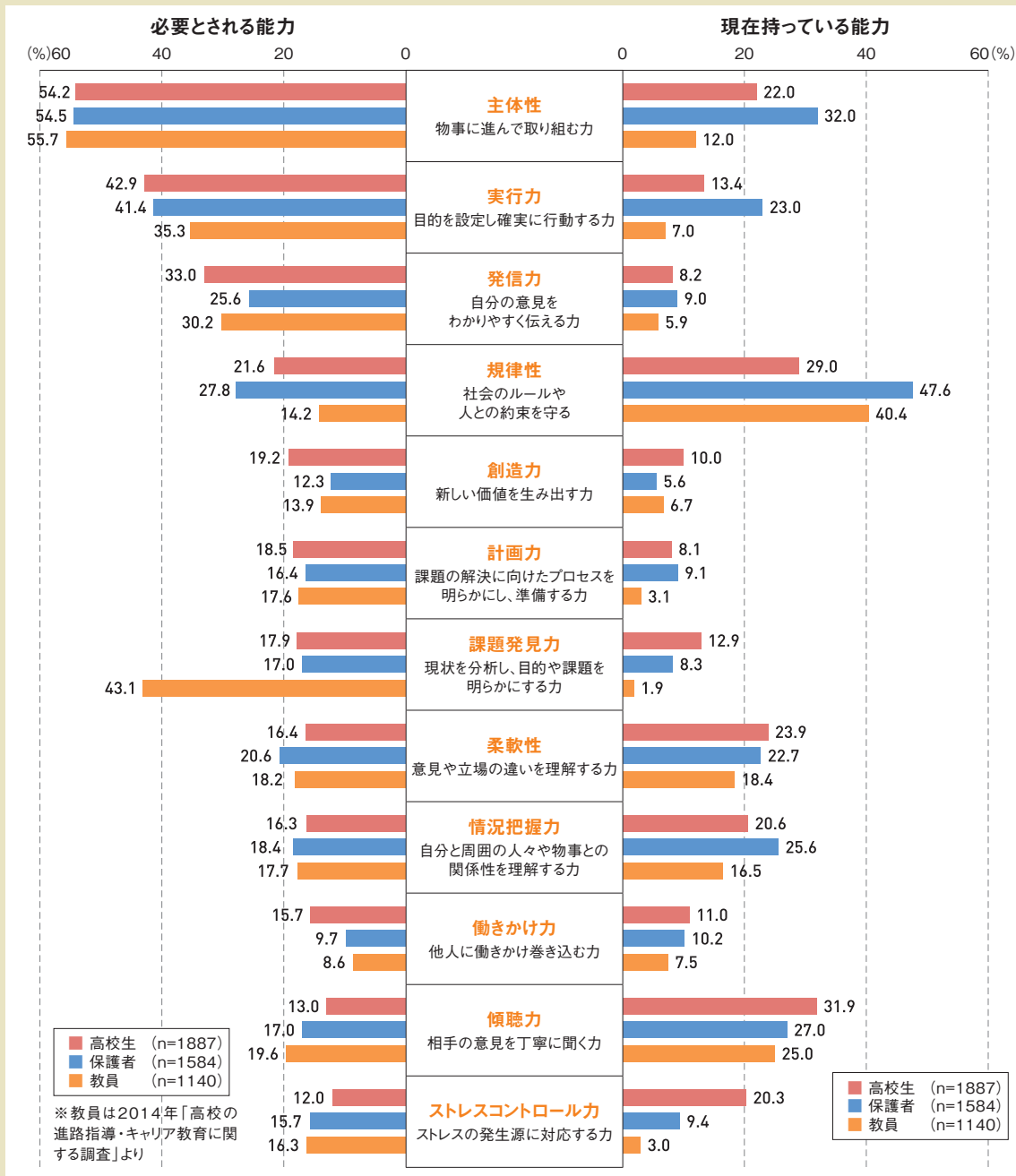
保護者と教員のギャップが大きい「課題発見力」

高校生・保護者・教員に経済産業省が定義した『社会人基礎力』の12の能力要素のうち、高校生にとって「将来、社会で働くにあたり特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」をそれぞれ3つまで選んでもらった（※教員は2014年調査より）。

高校生・保護者・教員のいずれも必要な能力のトップは、「主体性」：物事に進んで取り組む力」。2位は高校生と保護者は「実行力」：目的を設定し確実に行動する力」だが、教員は「課題発見力」：現状を分析し、目的や課題を明らかにする力」であった。保護者・高校生と教員との間で「課題発見力」への認識の差が大きく、そこを埋めていくことが高校現場での今後の重要な課題となるであろう。

現在持っている能力は、高校生のトップが「傾聴力」：相手の意見を丁寧に聞く力」、2位は「規律性」：社会のルールや人との約束を守る力」である。同項目は保護者と教員はトップであつ

図 18 社会で働くにあたって必要とされる能力と現在持っている能力



た。また、高校生・保護者・教員のいずれも「主体性」「実行力」「発信力」は、必要な能力と現在持っている能力の差が10ポイント以上あり、「必要だが、現在持っていない」との評価になっている。

またこれらの必要な能力を身につけるのに有効な場を保護者に尋ねたところ、1位は「部・クラブ活動の時間」、次いで「校外活動(地域行事・ボランティア・インターシップ等)」「文化祭や体育祭などの学校行事」が5割超で続き、教科の時間や総合学習など通常のカリキュラムを上回った。

『「キャリア教育」は良いことと思われるも認知は3割』

『キャリア教育』という言葉を知っているかを尋ねたところ、認知率は33%であった。

次に、キャリア教育の定義※を提示したうえで、キャリア教育の推進についての考えを尋ねたところ、「非常に良いことだと思う」は26%、「まあまあ良いことだと思う」を合わせると「良いことだと思う・計」は80%であった。キャリア教育については、認知率、印象が「良い」という割合ともに、大短進学率が高い高校の保護者ほど高い傾向がみられる。

『「キャリア教育」は良いことと思われるも認知は3割』

図19 必要な能力を身につけるのに有効な場 (大短進学率別/保護者/複数回答)

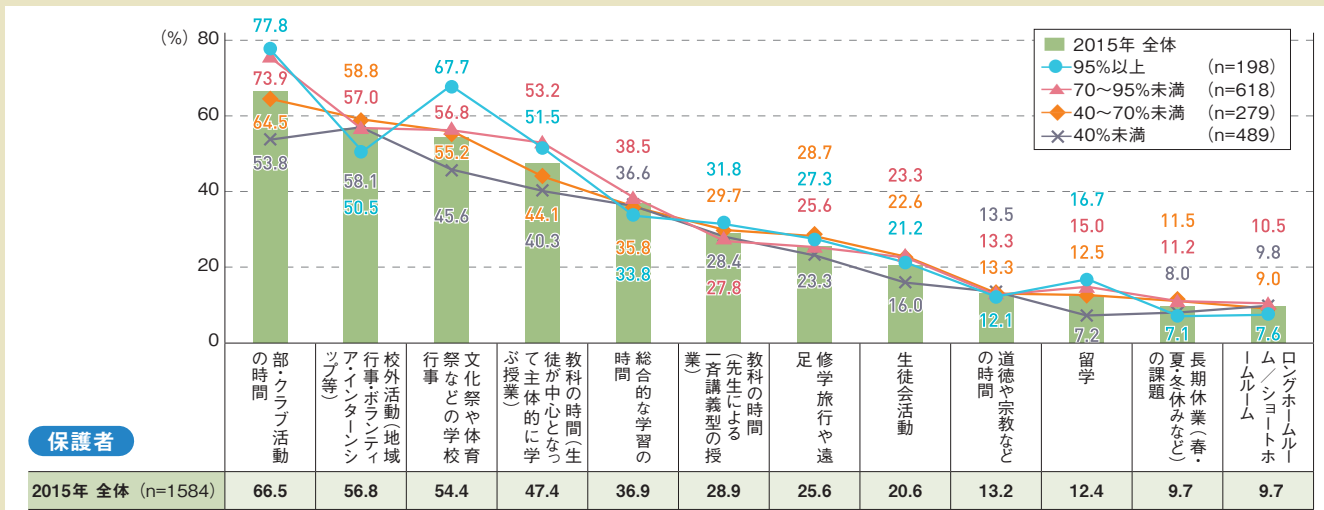


図20 キャリア教育の認知 (保護者/単一回答)

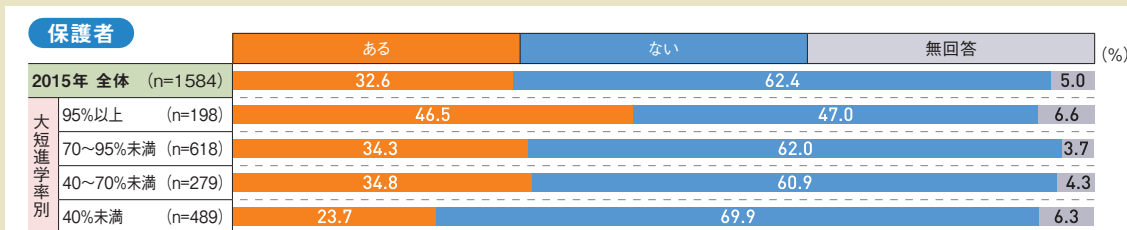
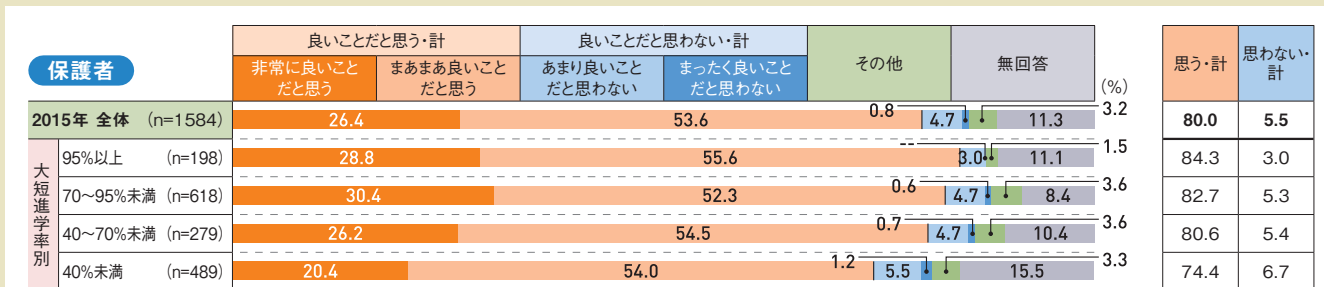


図21 キャリア教育推進への考え (保護者/単一回答)

※「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」(中教審)



最新の入試制度の情報不足感が
難しさの要因1位に

保護者に子どもの進路選択へのアドバイスの難しさの程度を尋ねたところ、20%が「非常に難しい」と回答。「やや難しい」まで合わせると71%が難しいと感じている。続柄別にみると、父親に比べて母親が難しいと感じている。

アドバイスが難しいと回答した保護者に理由をすべて選んでもらったところ、「入試制度をはじめ最新の進路情報を知らないから」が48%で最も高く、2013年1位の「社会がどのようになっていくか予測がつかないから」(46%)を逆転した。続柄別にみると、父親は3位が「子どもが何を考えているかわからないから」であるほか「子どもの相談に乗ったり、アドバイスするような時間の余裕がない」など、コミュニケーション不足に起因する項目に特徴がみられる。母親は父親に比べて高い項目が多く、多くの不安を抱えているようだ。

図 22 子どもの進路選択へのアドバイスの難しさ (保護者/単一回答)

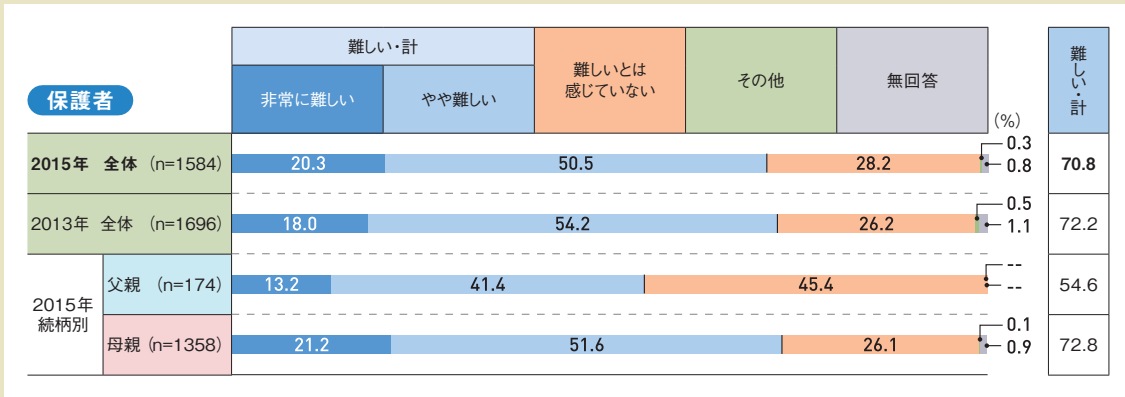
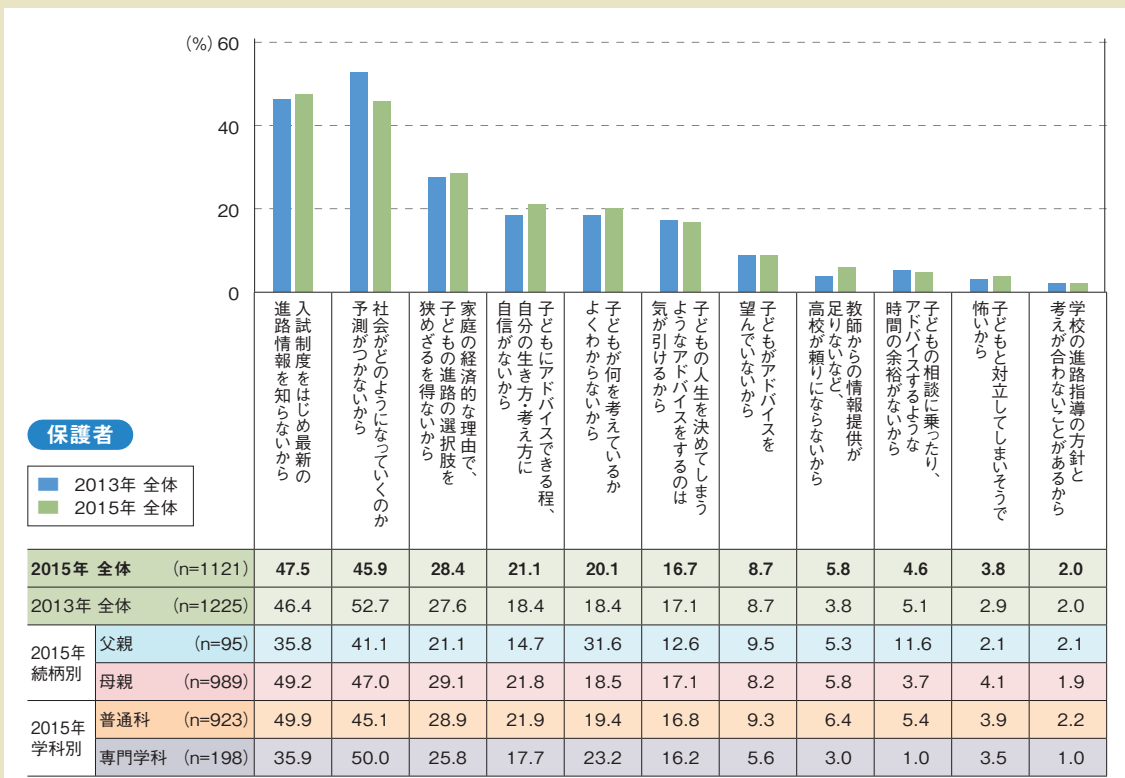


図 23 アドバイスが難しい理由 (保護者: 図22=アドバイスが「非常に難しい」「やや難しい」回答者/複数回答)



進学検討に重要度を増す
入試制度の仕組みと内容の情報

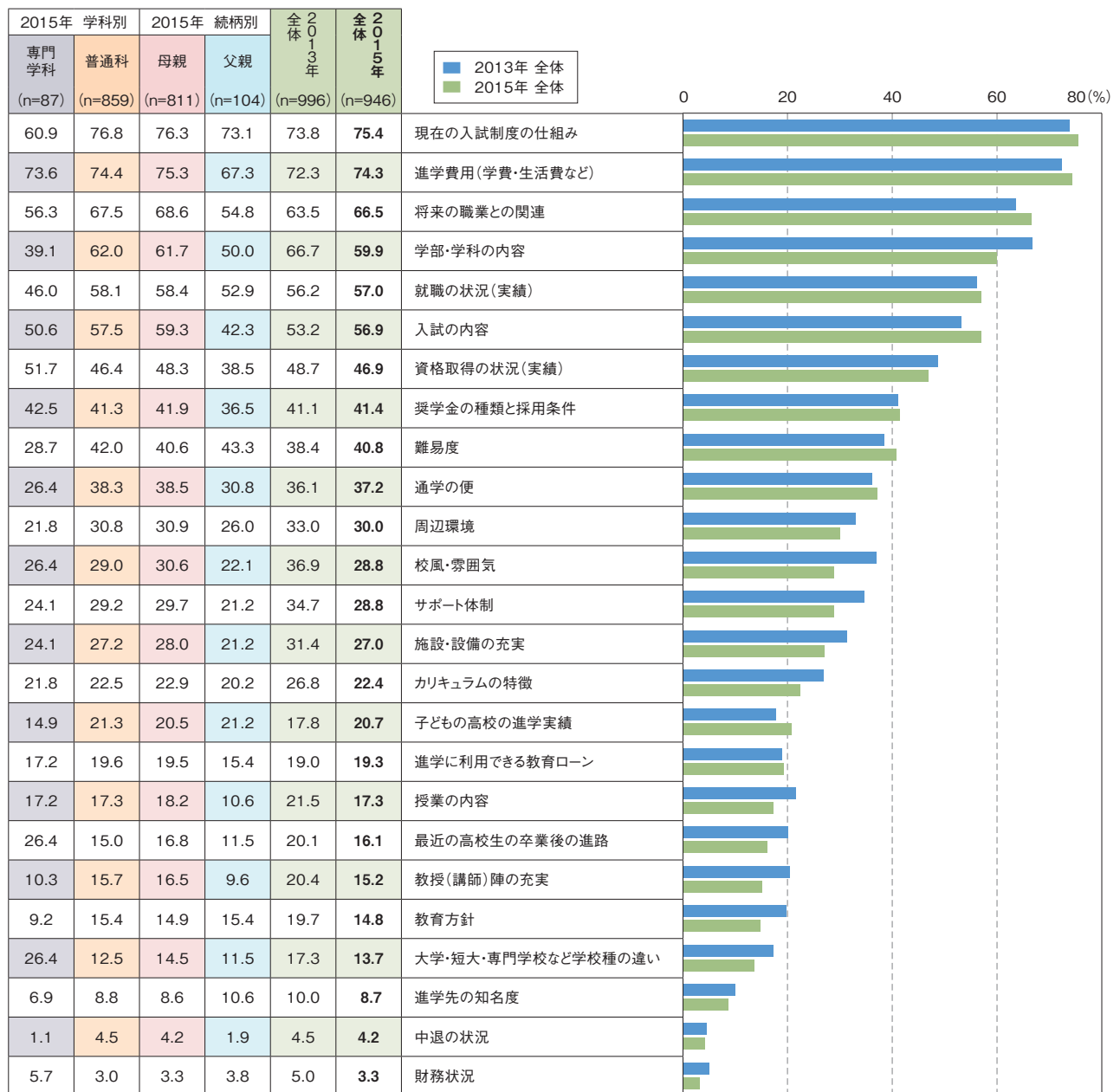
進学検討で重要な情報を、子どもを進学させたいと思っている保護者に尋ねた。トップは「現在の入試制度の仕組み」、僅差で「進学費用(学費・生活費など)」が続く。以下「将来の職業との関連」「学部・学科の内容」「就職の状況」「入試の内容」が続く。2013年に比べて入試制度の仕組み・入試の内容・難易度など入試に関する情報は若干高くなった。

一方、「学部・学科の内容」「校風・雰囲気」「サポート体制」「施設・設備の充実」など学校の内容に関する項目は低下した。

続柄別にみると、母親は父親に比べて全般に高めで、子どもとのコミュニケーションをとるにあたって様々な情報を重要に感じているようだ。

学科別にみると普通科の保護者は専門学科に比べて「現在の入試制度の仕組み」「難易度」など入試に関する項目、「将来の職業との関連」「就職の状況」など就職に関する項目も高いなど、全般にスコア高めている。一方、専門学科の保護者は普通科に比べて「資格取得の状況(実績)」を重視している。

図 24 進学検討で重要な情報 (保護者：子どもを進学させたい希望者 / 複数回答)



高校と家庭の役割分担の考え方

学ぶ習慣・マナー・人間関係に 高校の役割を期待する親が増加

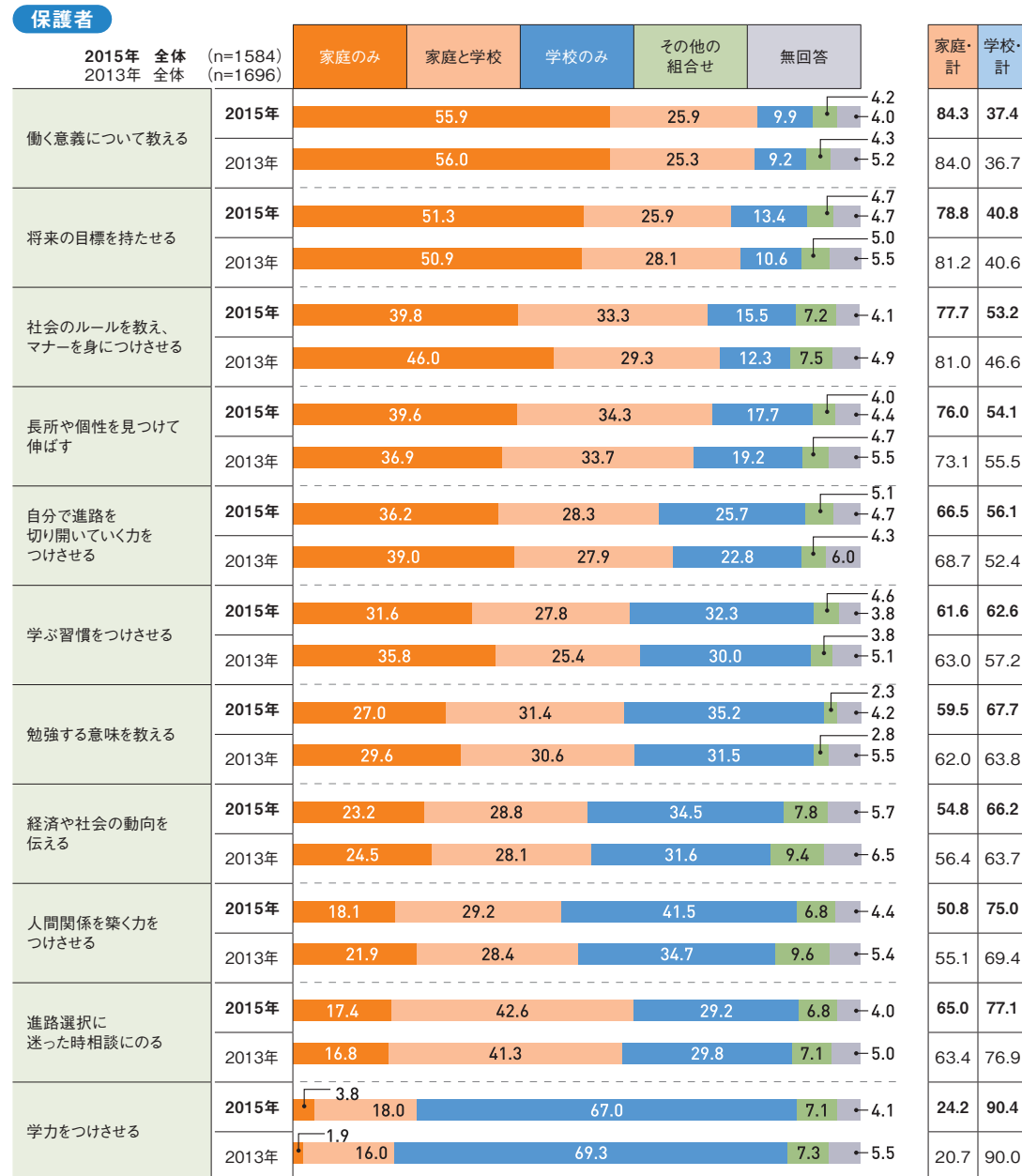
高校生の教育に関する下の11項目について、それが「家庭」「学校」「その他」いずれの役割であるか選んでもらい、回答状況を分類した。

「家庭・計」は、「働く意義について教える」が8割超で最も高く、次いで「将来の目標を持たせる」「社会のルールを教え、マナーを身につけさせる」「長所や個性を見つけて伸ばす」が7割超で続く。

「学校・計」は、「学力をつけさせる」が90%で最も高く、「進路選択に迷った時相談に乗る」「人間関係を築く力をつけさせる」が7割超で続く。

2013年と比べると「社会のルールを教え、マナーを身につけさせる」「学ぶ習慣をつけさせる」「人間関係を築く力をつけさせる」は「学校・計」が5ポイント以上増加したほか、「自分で進路を切り開いていく力をつけさせる」「勉強する意味を教える」等も増加しており、これらを学校の役割とする保護者が増えている。

図 25 高校生に対する役割 (保護者/「家庭の役割」「学校の役割」「その他の役割」回答組合せ)

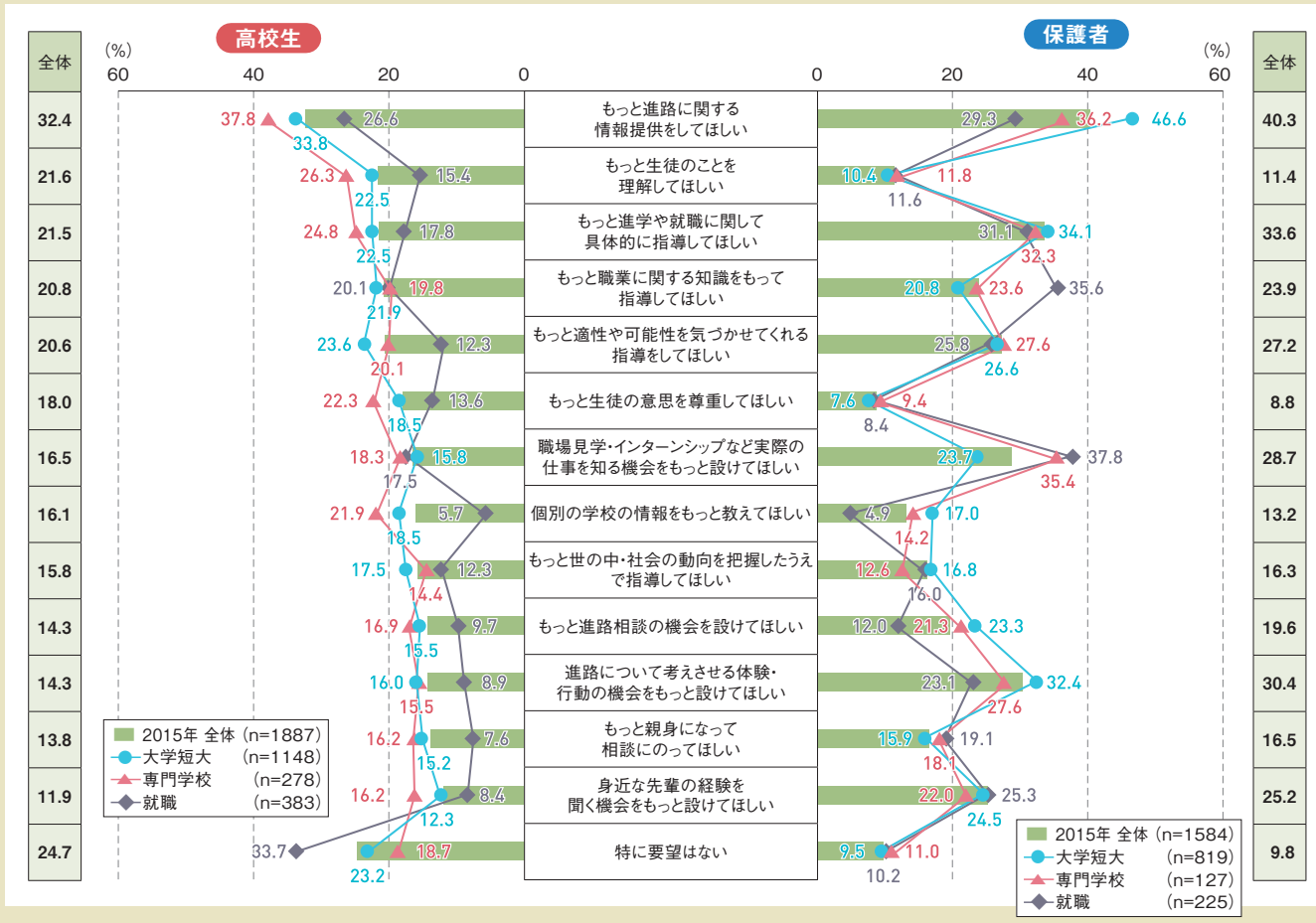


体験・行動を伴う機会や
個々に合わせた指導を要望

高校の進路指導についての要望を高校生・保護者それぞれに選んでもらった。高校生・保護者とも回答トップは「もっと進路に関する情報提供をしてほしい」。高校生は次いで「もっと生徒のことを理解してほしい」「もっと進学や就職に関して具体的な指導してほしい」「もっと職業に関する知識をもって指導してほしい」が続き、自身に合わせた進路指導をしてほしいという要望が上位に目立つ。希望進路別では、専門学校希望者で高い項目が多い。

一方保護者は「もっと進学や職業に関して具体的に指導してほしい」「進路について考えさせる体験・行動の機会を設けてほしい」が共に3割以上で続いている。後者は特に大短進学希望者の保護者で高い。具体的な指導や体験・行動を伴う進路指導を要望する保護者が多いことがわかる。コメントからは、高校生一人ひとりに合わせた指導を要望する声が多くみられたほか、受験やキャリア教育について親としてできることの難しさから学校へ頼る気持ちが表れているものもみられた。

図 26 高校の進路指導への要望 (希望進路別/高校生・保護者/複数回答)



▼ フリーコメント 7 高校の指導や先生、キャリア教育に対する意見・要望【保護者】

■ 高校の指導や先生について

- 大学受験方法などよくわからないので、子どもまかせになっている。もっと情報がほしい。[三重県/母親/女子]
- 一人ひとりの性格や能力によるいろいろな可能性を指導してほしい。[宮城県/母親/女子]
- インターンシップが大変参考になったようだ。いろいろな体験をさせてもらえることは貴重です。[広島県/母親/女子]
- 現状、子どもたちが置かれている立場が一

番わかるのは、学校であり子ども本人かと…。その時代にあった教育、役立つと思われるご指導をしていただくと助かります。[福岡県/母親/女子]

○ 有名校、国公立大、難関大合格率にとらわれない広い視野での指導、個人個人の個性を生かした指導を望みます。[広島県/母親/女子]

■ キャリア教育について

- 働く意味を意識させるために必要です。[兵庫県/父親/男子]

○ 本人の希望をよく聞いてアドバイスしてほしい。キャリア教育は個人の意志が壊れてしまわないか心配。[群馬県/父親/女子]

○ キャリア教育の説明が書いてありますが具体例などあげてもらってもっとわかりやすい。このように説明内容が難しいので親自身が理解できず子どもにアドバイスができない。[福岡県/母親/女子]

○ キャリア教育は、一人ひとりに対し、向き合っていけるなら良いと思う。[福岡県/母親/女子]

*フリーコメント末尾のカッコ内の表記は【都道府県/続柄/子どもの性別】